

爽 風

平成23年度 第16号

おゆみ野南小学校だより

平成24年 1月 6日



新年明けましておめでとうございます。穏やかな年の初めを過ごされたことと思います。子どもたちもここにこしながら登校してきました。普段の学校生活ではできない体験や公共施設の利用、親戚の方や来客等へのあいさつや語らいをたくさん経験してきたことと思います。その一つ一つが、やわらかい脳を刺激して学びへとつながっていると信じます。

さて、初夢の縁起物に「一富士、二鷹、三茄」が言われます。どんな初夢を見たかご家族での話題になりましたでしょうか。

昨年4月14日の学校教育説明会で申し上げた通り、千葉市では「夢と思いやりの心を持ち、チャレンジする子ども」の育成をめざして学校教育を行っています。学校教育の役割は、子どもたちが集団生活の中で、人間としてより良く生きるための「人格形成」をめざしながら、自ら学ぶための基礎・基本となる学力をしっかりと身につけさせることです。

互いに思いやりの心を持って過ごし、共に生活する楽しさ・学ぶことが喜びとなる学校にしていくことが、夢を持てる子になると考えています。それにはまず、大人が夢を持って生活することだと思っています。大人がしっかり生きて、夢に向かって過ごしている姿を見せたいものですね。「わくわくしながら生きるってすばらしいなあ。」とおのずと子どもは、大人の姿を見て学んでいるのです。

伝承遊びで知恵や社会性を



わんぱくの手首の返しいかのぼり

宮葉 清子

(「いかのぼり」は、凧のことです。)

子どもルームの子どもたちが凧あげをしていました。お正月に、親子で凧揚げ・羽根つき、家族ですごろく遊びなどをあまり見かけなくなりました。子どもたちは、どんなお正月遊びをしているのでしょうか。ゲームやカード遊びでしょうか。伝承文化がだんだん薄れてきているようです。

伝承遊びといえば、日常的な遊びとしてすぐ挙げられるのが、あやとり・けん玉・鬼ごっこ。これも学校以外では、あまり見かけなくなりました。伝承遊びは、「子どもの集団

の中で自然発生的に生まれ、受け継がれてきた」ものだと言われます。そして「遊びを通して経験を重ね、その経験が知恵となり、生きる力になっていく。」に違いありません。

ルームの子どもたちも、最初はなかなかうまく上げられませんでした。何回も繰り返すうちに北風に乗せて上げることが分かったようでした。自分で作り出すあやとりや折り紙も楽しんでいるうちに、創造力や表現力がごく自然に膨らんでいくでしょう。けん玉では集中力や根気・意欲が育つでしょうか。

学校では、鬼ごっこをしている子どもたちが、「〇〇から～までの間で遊ぼう」「コンクリートの所は、『危ないからだめ』って先生が言ったよ。」などと約束したり、「転んだ人は捕まえちゃだめね。」とルールを決めたりしているのを見ます。このようにしてルールを守る規範意識や楽しく遊ぼうという仲間意識が育つのだなあと感じます。そして、どのようにしたらつかまらないかという知恵を働かせ、機敏な身のこなしも身につきます。また、竹馬に挑戦している子もいます。前傾姿勢で乗ると均衡が保てることや重心の置き方を体で覚えていっています。

このような伝承遊びは、本来子どもから子どもに伝わってきたものですが、今は異年齢で遊ぶ機会が減ってきているため、大人が伝えていかないと受け継がれなくなってしまうと危機感さえ感じています。

かるたもいいですね。伝承遊びを子どもと一緒に楽しみながら伝えていきたいと思っています。かるたといえば、「千葉市のふれあい子どもかるた」が市内の小学生の手で完成しました。本校の3年1組 早川 柊さんの作品(の絵札)が採用されました。(校長 宮葉 清子)